



大東っ子と「江戸しぐさ」

校長 永山 誉

学校の桜の木の葉も赤や黄色に染まり、落ち葉となって地面を染めています。いよいよ師走。早いもので、2学期も残り1か月となりました。12月は2学期のまとめの月。子どもたちには、2学期の活動をしっかりと振り返らせて冬休みを迎えさせたいものです。



さて、11月は、大東っ子まつりに校内音楽会と、子どもたちの成長を実感できる大きな行事が行われました。特に、大東っ子まつりは、今年31回目を迎え、創立50年目の記念すべき年の行事として、実行委員会や育成会、そして自治会の皆様のお力添えをいただきまして、盛大に実施できましたことを、この場をお借りし感謝申し上げます。ありがとうございました。子どもたちにとっても、今年は特別なものになったのではないのでしょうか。

ところで、子どもたちがそれぞれの学年に進級して8か月が過ぎました。この間、子どもたちは様々な活動を通して、着実に成長をしています。この2学期の中から、子どもたちの成長と大東っ子の心優しさを感じる出来事がありましたので紹介いたします。

毎朝、交差点に立って、子どもたちの登校を見守ってくださっている交通指導員さんからのお話です。

朝の子どもたちの登校は、様々な方向から学校へ向かってきますので、交差点によっては、子どもたちの列が滞留することがあります。しかし、ある交差点においては、2学期に入り、列が滞留することなくスムーズに流れるようになったとのこと。なぜ、スムーズに流れるようになったのか観察していると、交差点において、班長同士がお互いの状況を見て、譲り合う姿が見られるようになったというのです。この交差点には、特に大人が立っているわけではありませんが、おそらく様々な所で、防犯ボランティアや保護者の方が見守っていた中で、自然と身につけていったのではないのでしょうか。

私は、この班長の話を伺いながら、以前ある研修会で、「江戸しぐさ」についてお話を伺ったことを思い出しました。「江戸しぐさ」と言われるものには様々なものがありますが、「傘かしげ」「肩引き」「こぶし腰浮かせ」といったものは、現在でも受け継がれてきていることではないのでしょうか。江戸時代の下町の人々は、雨や雪の日に路地で人とすれ違う時、お互いに傘を相手と反対側に傾けたそうです(傘かしげ)。これは、雨や雪が相手側にいかないようにという思いやりの気持ちがあるからです。人ごみですれ違うとき、お互いに肩を引いて体を斜めにして通り過ぎたり(肩引き)、乗り物で後から来る人のためにこぶし一つ分腰を浮かせて席を作ったり(こぶし腰浮かせ)することは、今でも見られる光景です。しかし、これらのことは、常に周りの人に対する気配りができていないとなかなか行動にはうつせないものです。大東っ子には、こうした「江戸しぐさ」にも似た、相手を思いやるやさしい気持ちが育っていることは、こうした班長の行動からも分かります。自分のちょっとした配慮で、たくさんの周りの人たちの気持ちが明るく、楽しくなります。これからも、大東小学校に、たくさんの「江戸しぐさ」が生まれることを期待しています。



2学期の終業式まで1か月を切りました。冬休みには、年末年始を迎えることから、御家族で過ごされる機会も増えるのではないのでしょうか。平成最後の年末年始、少し早いですが、御家族そろってよいお年を迎えください。